



地球・人類の将来と感染症 —エコヘルスの視点—

日本では、戦後の経済発展とともに生活環境が改善され、生活状況・医療サービスも良くなりました。その結果公害による健康被害や感染症が減少し、寿命が急速に延長しました。しかし、地球全体を見渡せば、新興国では環境は悪化し、途上国では感染症が蔓延し、日本もその影響から逃れることはできません。長崎、日本、世界、地球を考えたとき、私たちはどのような行動をとれば良いのでしょうか？そのヒントとして環境と生活と健康を一体として捉える「エコヘルス」という考えをご紹介します。



日時：平成 23 年 3 月 3 日(木)
午後 7 時～ 8 時 30 分

会場：長崎市立図書館 新興善メモリアルホール
(〒850-0032 長崎市興善町 1-1)

問い合わせ：長崎大学熱帯医学研究所 095-819-7813



- 講師：門司 和彦 (もじ かずひこ)
総合地球環境学研究所・教授
- 専門：人類生態学・熱帯公衆衛生学